

# 京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる

## 1 目的・概要

本プロジェクトでは、「1, 日本酒の魅力を伝え、日本酒に馴染みのない人に新たな一面を知ってもらう」「2, コミュニティを作り日本酒を継続的に楽しんでもらう」「3, プロジェクトを通じて伏見に貢献する」という3つのコンセプトを設定し、最終ゴールである伏見でのツアー実施に向けて活動しました。SNSで調査した結果、日本酒に対するイメージが「美味しくない」「罰ゲームの時に飲まされる」という否定的なイメージが多いことが分かり、若者の日本酒離れの現状に対して「日本酒の魅力」を伝えることを大きな軸にしました。そして、1年間というプロジェクトの限られた時間の中で日本酒の魅力を存分に伝えるには、「コミュニティの構築」が重要であるという考えに至りました。そのためツアーを実施した際は参加者同士でコミュニティを形成してもらえようLINEのオープンチャット機能を運営したり、ツアー内で参加者間のコミュニケーションの構築をはかりました。また、京都の大学生として、日本酒だけでなく歴史的風情も残る伏見にプロジェクトを通して貢献したいという想いのもと、インタビューした酒蔵をはじめとする本プロジェクトに関わっていただいた関係者の方に「ツアー成果報告書」を還元する形で貢献することに取り組みました。



### Annual Schedule

2020年	4月	オンラインでのプロジェクト活動開始	
	6月	プロジェクトのコンセプト決定	
	8月	同志社大学2020年度プロジェクト科目「京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる」公式Instagram「同志社大学日本酒学部」、公式Twitter「日本酒好き子ちゃん」、公式Facebook「伏見ツーリズム」開設	
	9月	対面でのプロジェクト活動開始	
	10月	まいまい京都阿比留優子さんによる京都でのツアー企画・ビジネスについての講座受講 藤岡酒造株式会社五代目蔵元 藤岡正章さんに伏見・日本酒についてインタビュー ハナクリニック石久保亮先生によるアルコールリテラシー講座受講	
	11月	月桂冠株式会社総務部広報課長 田中伸治さんに伏見・日本酒についてインタビュー 株式会社北川本家 14代目当主 北川幸宏さん、田島善史社氏に伏見・日本酒についてインタビュー 「伏見まち歩きツアー」ツアールート下見 玉乃光株式会社丸山恒生社長、金子真一さん、山川結さんに伏見・日本酒についてインタビュー	
	12月	「伏見まち歩きツアー」開催告知 「伏見まち歩きツアー」参加者募集・参加者事前アンケート実施開始 「伏見まち歩きツアー」ツアー内容下見 「伏見まち歩きツアー」リハーサル 「伏見まち歩きツアー」開催・参加者事後アンケート実施	
2021年	1月	ツアー実施成果報告書作成	

## 2 成果達成度

春学期は、オンラインでプロジェクトを進めました。初対面のチームの仲間とオンラインで意思疎通し関係を構築していくことは容易ではありませんでした。しかし、毎回授業後に「放課後トークルーム」と題するオンラインでの交流の時間を設けることで、チーム間のモチベーションが維持できるように努めました。また、コロナ禍で「旅」に対する概念が変わったことから、本プロジェクトの肝であるツアーに絡め、「旅をする」とは何なのかを全員で熟考しました。春学期は主に、読めない社会情勢の下で自分たちのプロジェクトの本質を探ることに重点的に取り組みました。



秋学期は、春学期に実践的な動きが取れなかった分、たくさんの方にスピード感をもって取り組みました。具体的には、外部講師の方からの講義・酒蔵インタビュー・ツアーの内容検討や各役割別準備・下見・ツアーリハーサル・ツアー実施です。ツアー当日にスムーズに行動できるよう、リハーサルでは時間を計測しながら入念な準備を行うことで、ツアー当日は余裕をもって円滑に進めることができました。コロナ禍で動きにくい状況でしたが、今できることは何かを探し着実に進めました。



特に、ツアー内の利き酒会においては、ノンアルコール希望者へは甘酒オレを提供したり、ノンアルコール参加者同士の席を近くしたりするなどして、お酒好きな方とまだ馴染みのない方両者ともに楽しんでもらえるよう工夫しました。4種類の日本酒についての利き酒シートを自分たちで作成したことで、参加者同士での活発な議論を生むことができました。参加者のリアクションを見ても、私たちが伝えたかった日本酒の味の多様性や魅力が存分に伝わったようで非常に嬉しかったです。ツアーを通して参加者と日本酒の橋渡しの要を担えたことは、感慨深い経験でした。

また、SNSを駆使して伏見や日本酒について継続的に発信することで、実際にツアーに参加できない遠方の人たちにも日本酒の魅力が伝わるように意識し、Instagramのフォロワーは1月23日時点で500人を達成することができました。

また、SNSを駆使して伏見や日本酒について継続的に発信することで、実際にツアーに参加できない遠方の人たちにも日本酒の魅力が伝わるように意識し、Instagramのフォロワーは1月23日時点で500人を達成することができました。

# 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトを通して、京都に位置する同志社大学ならではの、伏見や日本酒を軸にした実践的な学びを構築できました。

今年の春学期はオンラインで授業を行い、秋学期からは対面へと切り替えました。オンラインでの意思疎通は難しかったですが、ミーティングを重ねたり、お互いの気持ちを共有したりする時間を大切にする事でチームの士気を高めることを意識しました。

秋学期は、SNSでのツアーの宣伝活動や酒蔵4社へのインタビュー、ツアー設計のための準備を本格的に進め、春学期に実践的な動きができなかった分、迅速かつ丁寧にプロジェクトを進めるように頑張りました。

コロナ禍という未曾有の社会情勢の中で、ツアー実施ができるかどうか分からないなかプロジェクトを進めるのは困難を極めました。しかしこの経験から、柔軟な思考で臨機応変に物事を考え行動する力が身につく、コロナ対策を徹底したうえで対面でのツアーを決行し、大きな成果をあげることができました。



## 編集後記

酒蔵へのインタビューや、ツアーのリハーサル・打ち合わせ・本番。秋学期に入って、何度も訪れた伏見のまちは、毎回新鮮な気持ちで楽しませてくれる風情あるまちでした。そんな伏見を日本酒という観点から五感で深く体感していくことは、プロジェクト科目でないと経験できなかったことであり、非常に充実した1年間でした。本プロジェクトを進める中で、外部講師の方、伏見の酒蔵や飲食店の方、ツアー参加者の方などとコミュニケーションが取れたことも大きな財産になりました。コロナ禍という制約のある日常の中で、1年間継続してプロジェクトを進め、ツアーの成功という形に残せたことはとても感慨深い経験でした。コロナという未曾有の社会状況の中、本プロジェクトに協力してくださったすべての方々に感謝したいです。

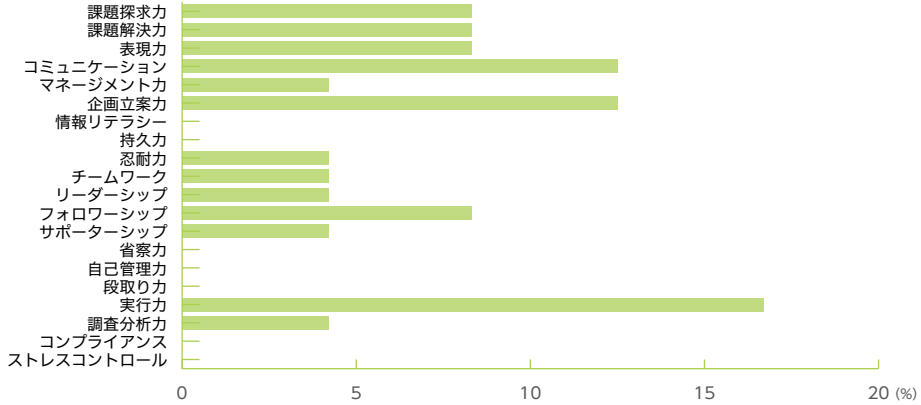
## プロジェクトメンバー

清水 理世(社会3) 谷川 葉純(法3) 廣田 龍飛(商4) 朴 廷彬(商2) 田中 なな(商2) 安岡 明日香(政策3)  
上野 瑞紀(グローバル地域文化3) 松本 悠(グローバル地域文化4)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

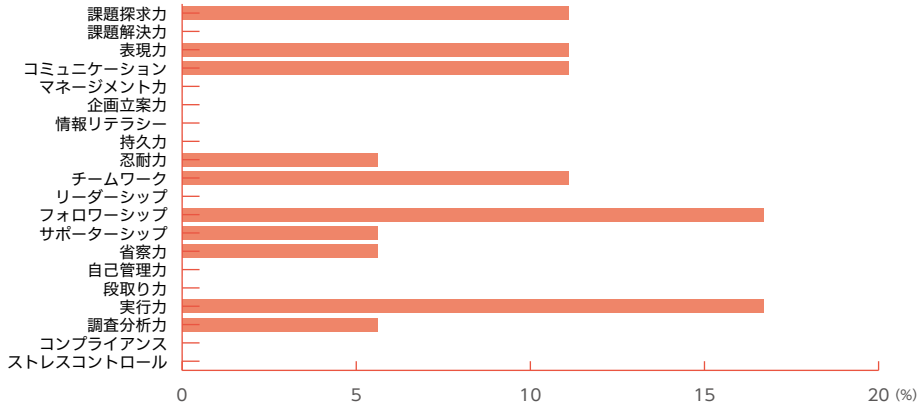
### 秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



### 秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

